

2023 雑記

第 16 期 OB 北澤 涼平

◆バンドっていいよなとかいう話

アニメ（も含めたコンテンツ）に関する研究をしていると、いろんなコンテンツをメタ的な視点で観るようになってしまってもよくない。純粹にコンテンツを楽しみたいのに、分析者としての自分が、観劇者としての自分を阻害する。そんな中、最近観た『ぼっち・ざ・ろっく！』というアニメは、観劇者として純粹に楽しむことができたコンテンツであった。人と関わるのが苦手な家でギターを弾くことしかできなかった少女「ぼっちちゃん」が、偶然バンドに加入したことをきっかけに、成長を遂げるというあらましである。著者も高校時代に地元のライブハウスを中心に小規模ながらバンド活動をしていた時期がある。昔にあるわけだが、その時の光景が、心象風景までも伴って、ありありと鮮烈な輪郭を帯びていくほどに、このアニメはリアルであった。バンドで音楽をやるという行為には、やはり言葉では言い表せぬ魔法的なものが存在すると思ったし、無上の美しさがあると思う。観劇者としての自分は、現実世界を生きるリアルな自分に戻って、世界は獲得可能なものでなくとも、せめて自分の手の届く範囲だけは、革命させようかと思ったりもする。少女の成長にリアルな自分が感化されるわけだ。そういったコンテンツを観ることは、長く退屈な人生における数少ない喜びの 1 つだなとぼんやり思う。

◆よいものを真似するという行為の学習効率性が高いとかいう当たり前の話

料理にハマった。もともと自炊はしていたのだが、ここ 1 年のレパートリーの伸び率には目を見張るものがあり、料理の腕前もかなり向上した。きっかけは、YouTube 上にアップロードされている料理の解説動画である。これをみながら、レシピを真似る。真似して料理をするという行為は、思いがけず、自己肯定感の向上に役立った。解説動画をみてはいるものの、自分でつくった料理がうまいくと、「俺って結構センスあるかも」と思うってしまうものである。また、実践してすぐにフィードバックを獲得できるというスピード感もよい。そうして次は、解説動画の手助けなしに、何度も何度も同じものをつくって、長期記憶の引き出しにレシピをねじ込むわけだ。この、解説動画の真似→リハーサルという作業を、いろんなレシピを使って実践していると、だんだん料理の法則みたいなものがみえてくる。「みりんは、〇〇の場合に使って…」とか「この野菜は、〇〇と合わせるとおいしいかも」とか「この味に足りないのは、〇〇かもしれない」とかいうアイデアが湯水のように湧いてくるのである。おかげで、レシピなしで、冷蔵庫にあるものを最大限活用して美味しい料理をつくるという、最高難易度タスクも朝駆けの駄賃である。読者諸賢も、オンライン授業や在宅勤務の折に、普段しないような料理に挑戦してはいかがであろうか。